

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	932.00	2020/9/21
High	943.00	2020/9/21
Low	830.00	2020/9/24
Close	852.00	2020/9/25

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3133.00	2020/9/21
High	3170.00	2020/9/21
Low	2813.00	2020/9/24
Close	2892.00	2020/9/25

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2365.00	2020/9/21
High	2395.00	2020/9/21
Low	2188.00	2020/9/24
Close	2218.50	2020/9/25

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	7960.00	2020/9/21
High	8024.00	2020/9/21
Low	7370.00	2020/9/23
Close	7523.00	2020/9/25

ニュースエクスプレス

トヨタとデンソー、燃料電池電源車を共同開発...実証運転開始へ

トヨタ自動車と移動式発電機製造のデンソーは9月17日、水素を使って発電する燃料電池電源車（FC電源車）を共同開発し、今後、実証運転を通じて実用化に向けた取り組みを進めていくと発表した。

トヨタとデンソーは、温暖化防止に向けたCO2排出量の削減や大気汚染防止のためには、商用車・産業車両の燃料電池化が必要であると考えている。また電動車は、災害発生時や屋外イベントなど様々な場面で、必要な時に必要な場所で大量の電力を供給できる社会に役立つ機能を備える。両社はこのような可能性を追求するため、環境性能に優れたFC電源車を共同で開発した。

共同開発したFC電源車はトヨタの小型トラック『ダイナ』をベースに、動力源には燃料電池自動車（FCV）『MIRAI』に搭載されているFCシステムを活用し、デンソーが環境省補助事業により開発したFC専用給電機器を装備。また、長距離移動・長時間発電を可能とするように、水素を約65kg（水素タンク27本）搭載している。

両社は2020年9月より実証運転を行い、従来型のエンジン式発電機と比べて、様々な負荷機器への影響、CO2の排出削減量などFC電源車ならではの効果を検証する。

(ソース: <https://response.jp/article/2020/09/17/338545.html>)

エアバス、CO2排出ゼロの旅客機を計画 水素で航行

欧州航空機大手のエアバスは21日、温室効果ガスを出さない商用機を製造する計画を発表した。そうした機体は初だとしている。

エアバスは、水素を燃料とした旅客機を2035年までに実用化させたいとしている。

ギヨム・フォーリ最高経営責任者（CEO）は、「ゼロe」（排出ゼロ）をコンセプトとした3機種の設計によって、「商用機部門は歴史的な瞬間」を迎えたと述べた。

また、水素の利用は「航空機の気候への負荷を大幅に減らす可能性」があるとした。

航空機における水素の利用は、20世紀はじめに始まった。しかし、1937年に起きた飛行船ヒンデンブルク号爆発事故で中断された。2000～2002年には、液体水素を燃料とする航空機の実用性を研究する、欧州連合（EU）が資金を拠出した「クライオプレーン」プロジェクトにエアバスが参加。

(ソース: <https://www.bbc.com/japanese/54244929>)

ジンバブエ最大のプラチナ鉱山プロジェクト、難関をクリア

ロシアとジンバブエのベンチャーである Great Dyke Investments(GDI)はジンバブエ最大のプラチナ鉱山となる開発プロジェクトの難関を乗り越えた。ロシアの Vi Holding とジンバブエの投資家が50%所有しているGDIに対して、アフリカ輸出入銀行は事前調査を完了し、ターウェンデルでのプロジェクトの第一段階として5億ドルの融資を承認したと発表した。

この合弁事業は20億ドルの規模で、2021年からプラチナ鉱山の採掘が始まる予定。首都ハラレから約65キロの場所に位置するPGM鉱床は年間最高27トンのPGMとゴールドを生産する計画で、これは南アフリカとロシアに次ぐ世界第3のプラチナ埋蔵量を誇るジンバブエで最大のPGM鉱山となる。

10年来の深刻な経済危機に陥っているジンバブエは積極的に鉱山生産を増やして年間120億ドルを稼ぐ計画を立てており、プラチナ生産はその主要な収入源となるとみられる。

(ソース: <https://www.mining.com/zimbabwes-largest-platinum-project-clears-key-hurdle/>)

プラチナETF、貴金属の値上がり期待に

今年はゴールドとシルバーが大いに注目を集めているが、プラチナとAberdeen Standard Platinum Shares ETF (PPLT)も投資家にとって貴金属の上昇を期待できるだろう。

「プラチナとゴールドの0.7という相関関係を見ると、プラチナをポートフォリオに加えることでゴールドとは違った効果が得られるだろう。」とVantage Point Trading社。

需要サイドではプラチナは引き続き堅調な工業需要があるだろう。さらにプラチナ宝飾品も需要が増えており、特にミレニアル世代で人気が高い。

「投資の観点からみると、プラチナはゴールド同様のリスクヘッジができるが、歴史的にみると経済が困難な時期のプラチナのパフォーマンスはゴールドよりも優れている。例えば2008年の世界金融危機の際にはプラチナの週間リターンはゴールドのそれを30%以上も上回っていた。したがって前述の相関関係の数字が示すように、より多くのゴールド投資家がプラチナをゴールドに非常に近いものとして考えるだろう。」

(ソース: <https://www.etftrends.com/alternatives-channel/ponder-platinum-etf-for-precious-metals-upside/>)

新型コロナで各行のゴールド取引、利益増大

ゴールドとシルバー取引による利益で銀行各行は大幅な利益増大となるもよう。ゴールドとシルバーは価格の乱高下で過去最高価格を記録し、また新型コロナウイルス感染症の拡大による世界の供給経路の中断が背景にある。

金融コンサルタント会社のコアリションによると、世界の主要投資銀行50行の貴金属取引からの利益は過去9年間で最も多い25億ドルと、去年の2倍になる予想だ。

市場関係者によるとパークレイズ銀行、ゴールドマンサックス、モルガン・スタンレー各行は、今年は貴金属取引量を増やし、ドイツ銀行も貴金属取引トレーダーの採用を増やした。

HSBC、JPモルガン・チェイス、中国工商銀行（ICBC Standard Bank）を含むロンドンで保管庫を持つ各行は、上場投資信託を保証するゴールドの保管で収入を増やし、ワールド・ゴールド・カウンシルによると今年は600億ドル以上のゴールドETF需要があった。

(ソース: <https://www.ft.com/content/31d067d8-631a-4709-a66c-8c7528d66ec5>)

Translated by Kazuko Osawa, JBMA

WPIC直近の活動

- WPICのQ2クォーターレポートの日本語版ができました。プラチナの需給バランスの予測は、今年度は余剰から10トンの不足に修正されました。詳しくは <https://platinuminvestment.com/supply-and-demand/platinum-quarterly>
- WPICは「ゴールド&プラチナカンファレンス2020」をスポンサーし、プラチナに関するセッションである「プラチナフォーカステキ（コロナショックとPGMの未来）」は9/25（金）19:30-20:30にYouTubeのLIVEにて行われました。詳しくは <https://www.youtube.com/watch?v=yvMTLOpF9H0>



@wpicjapan